



ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財

知立の山車文楽とからくり

DASHIBUNRAKU
KARAKURI

Chiryu

山車

山車の奉納の起源は承応2年(1653)からと伝えられ、現在は山町・中新町・本町・西町・宝町の5町がそれぞれ奉納しています。知立の山車は、彫刻に金箔を施し棍棒が後方のみある点が、特徴のひとつとされています。5町の山車は、昭和40年(1965)にそれぞれ市の文化財に指定されました。

知立まつりでは山車の担ぎ上げが行われます。ある年、刈谷城主が上覧する中で先頭の山車の車軸が折れ、とっさに棍棒連が後方の棍棒に力をいれて人力だけで神前まで進み奉納しました。それを藩主が賞賛し、以来担ぎ上げが伝統になったといわれています。



知立の山車文楽

知立の山車文楽は、延享2年(1745)頃から山車の上で行われるようになったといわれています。文楽は義太夫の語りや三味線の音色に合わせて3人の人形遣いが一体となって人形を操り、浄瑠璃芝居を演じます。

現在山車文楽を上演しているのは山町・中新町・本町・宝町の4町です。このような人形芝居が山車の上で上演される形態は知立でしか見られないもので、平成2年(1990)に国の重要無形民俗文化財として指定され、平成28年(2016)にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

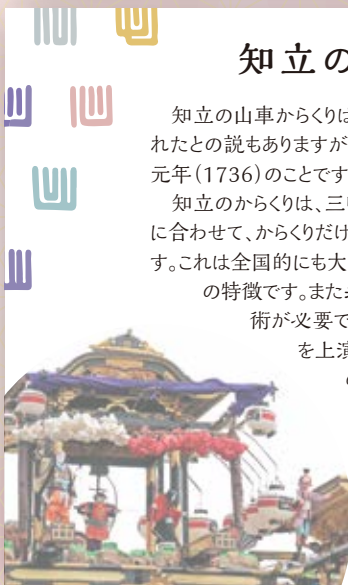


知立の山車からくり

知立の山車からくりは承応2年(1653)に上演がはじめられたとの説もありますが、具体的に記録が見られるのは元文元年(1736)のことです。

知立のからくりは、三味線や義太夫の語りからなる浄瑠璃に合わせて、からくりだけで物語を演じる芝居形式で上演します。これは全国的にも大変珍しいといわれ、知立の山車からくりの特徴です。また糸を操って動かすため、大変高度な技術が必要であるともいわれています。現在からくりを上演しているのは西町のみで、演目は「一の谷合戦」、「平治合戦」があります。

知立の山車からくりは山車文楽と同様に、平成2年(1990)に国指定重要無形民俗文化財に指定され、平成28年(2016)にユネスコ無形文化遺産に登録されました。



知立まつり

知立まつりは知立神社の祭りで、毎年5月2日・3日に本祭と間祭が隔年で開かれます。そのような形をとっているのは、市原稲荷神社(現刈谷市司町)の例祭と交互に行われていた名残であるといわれています。現在本祭では山車が、間祭では花車が奉納され、知立神社は大変賑わいます。

本祭では、町の人々が山車文楽とからくり人形芝居を奉納します。町の人々によって継承された伝統の技は知立まつりの見どころのひとつです。



本祭 山車巡行地図



5月3日
金・祝

令和6年

5月2日 木
3日 祝

ちりゅう

知立まつり



会場 知立神社及び周辺道路

交通 名鉄「知立駅」下車徒歩約12分
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。
※知立駅前駐車場にレンタサイクルがあります。

名鉄名古屋本線

名鉄名古屋 金山 神宮前 知立 東岡崎 豊橋

KATCH 生中継予定

令和6年5月3日 正午～午後6時(宮出終了まで)

【問合せ先】知立市観光協会
☎(0566)83-1111
<https://www.chiryu-kanko.com>

LINE 知立市 LINE 公式アカウント

西三河ぐるっとナビ
<https://www.nishimikawanavi.jp/>

※西三河の観光ポータルサイトと自由ルートを作成できる
ルート作成システム「Myたびノート」がOPEN
観光スポットやイベント情報だけでなくグルメ、宿泊予約など便利な機能満載!
西三河を周遊して楽しむためのコースや季節の特集なども充実しています!
西三河たびの必須アイテム「西三河もっちゃんナビ」を是非ご利用下さい。

ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財
知立の山車文楽とからくり



知立市マスコットキャラクター
ちりゅうび(黒子Ver.)

知立の山車文楽

衣浦定住自立園
イベント

高浜市 人形小路 花まつり
5月11日(土)・12日(日)

場所 人形小路一帯
(高浜市歴敷町)

東浦町 第31回東浦町於大まつり
4月20日(土)※雨天縮小開催

場所 於大のみち
於大公園

イオンモール東浦セントラルコート

知立まつり

5月3日



知立神社

知立神社は雨乞いや蝗除けのご利益があるとされ、古くから西三河の二十余郷、四十余村の氏神として広く崇められていました。江戸時代には東海道沿いに位置し、多くの旅人たちが知立神社を訪れました。境内には永正6年(1509)に再建されたと伝えられる多宝塔があります。神仏分離令による取り壊しの危機を乗り越え現在に至ります。



令和6年
5月3日祝

知立神社神事案内

午前9時
赤瓢箪 「長篠町豊受神社より知立神社へ」



午後2時
神輿渡御 「山屋敷町公民館より知立神社へ」



中新町

中新町にはまつりについて記された「中町祭礼帳」があり、県の文化財に指定されている。それによると、江戸時代には、文楽の他、からくり人形「百合若高麗軍記」などを上演していたことがわかる。現在は山車文楽を上演している。



本町

江戸時代には、からくり人形「聖徳太子絵伝記」を上演していた。大正時代以降になると人形芝居に替わり手踊りが上演されていたが、昭和56年(1981)に山車文楽を復活させた。本町の山車の高欄には井村徹堂による隸書が飾られている。徹堂は俳人の井村祖風の養子で、篆刻ではその名を知られた人物であった。文化人の多かった本町らしい特徴である。



西町

西町は現在でも山車からくりを継承している唯一の町である。江戸時代の頃には西町のほか山町・中町・本町も山車からくりを上演していた。現在演目は「一の谷合戦」と「平治合戦」が演じられている。



宝町

宝町は昭和22年(1947)に刈谷市泉田から山車を買受け、奉納するようになった。この山車はもともとは矢作町(岡崎市)にあったものといわれる。また、昭和33年(1958)までは、獅子舞や歌舞伎を上演していた。平成16年(2004)から新たに山車文楽を上演。



山町

山町には、まつりなどについて記された「山町永代帳」があり、安政7年(1860)に山町と西町が野田村の昌福寺(現刈谷市野田町)の大松1本を買つけ、台輪を製作したことが記されている。大正5年(1916)頃までは、からくり人形芝居「平治合戦」が上演されていた。現在は山車文楽を上演している。